

*Organo de Hokkaido Esperanto-Ligo*

# LEONTODO

N-ro 48

12 — 1972

## E N H A V O

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 和文タイフのための募金 .....   | 2                 |
| 2. 北海道エスパーント連盟新規約 .....  | 3                 |
| 3. 連盟の秋の合宿 .....   | 4                 |
| 4. 合宿をふりかえてみて .....  | 6                 |
| 5. 3日間の合宿で .....   | 菅田郁子 7            |
| 6. はじめて北海道大会に参加して .....  | 河口政子 10           |
| 7. ひとこと .....  | 向井豊昭 12           |
| 8. Lastatempo mi .....   | 佐々木雅彦 13          |
| 9. "Hokkajdo" という表記について .....  | 相沢治雄 14           |
| 10. ESENCO DE TANAKA-KABINETO .....                                    | A.A. Aleksejev 16 |
| 11. Kio estas duenkonduktanto .....                                    | T. Iĉikawa 20     |
| 12. S-ro Wijmer からのたより .....   | 21                |
| 13. 東京と北九州の Esperanto-Domo .....                                       | 22                |
| 14. PROTOKOLO DE la 36a Kongreso de Esperantistoj<br>en Hokkajdo ..... | 23                |
| 15. バハイとエスパーント(資料) .....   | 45                |
| 16. Japana-Esperanta Vortaro por mi(9) Hamada K.                       | 47                |

— 目次

72年分の会費を納めてください！

現在連盟の活動資金は約3万円しかありません。機関誌を1回発行すると、2万円かかります。至急本年度分の連盟会費を納めてください。個人会員800円(学生500円)、団体会員は1名につき600円(学生400円)。(団体会員の方は、所属のロンドの会計係に、そのグループの会費を納めてください。) 振替口座(小樽)17075番

*Vi pagu membership por 1972 to 1973!*

本 p32 の「会計報告」および  
「会費納入状況」を参照!

和文タイプのための募金

第2回発表(6月30日)

|        |        |
|--------|--------|
| 5,000円 | 中里和夫   |
| 1,000円 | 相沢治雄   |
| 500円   | 荒家登美子  |
| 小計     | 6,500円 |

第3回発表(8月30日)

|        |               |
|--------|---------------|
| 2,000円 | 山賀 勇          |
| 1,700円 | 斎藤和子          |
| 1,500円 | 石黒 実          |
| 1,000円 | 宮林徳子, 星田 淳(2) |
| 500円   | 早川 昇          |
| 小計     | 7,700円        |

合計42,150円 33名の方々から暖かい援助をいただき、目標の約9割に達することができました。いちおう和文タイプのための募金はここで片切りたいと思います。ご協力ありがとうございました。(Sawaya, Y.)

北海道エスペラント連盟 **新規約**

(1972.7.9 改正)

- 第1条(名称) この連盟は、北海道エスペラント連盟(Hokkaido Esperanto - Ligo)という。
- 第2条(組織) この連盟は、北海道在住のエスペランティストの中の希望者(個人会員)および地方会各団体(団体会員)で組織する。
- 第3条(目的) この連盟は、北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかることを目的とする。
- 第4条(事業) この連盟は、目的達成のため、次の事業を行なう。
- A 機関誌、印刷物の発行
  - B 講習会、展示会、合宿などの開催
  - C 国内外のエスペラント団体との共働
  - C エスペラント以外の諸文化団体との提携
  - D その他
- 第5条(大会) この連盟は、年1回北海道エスペラント大会(Kongreso de Esperatistoj en Hokkaido)を開催する。
- 第6条(委員会) この連盟に、次の委員よりなる委員会をおき、連盟の事業を立案、実行する。
- A 委員長1名、副委員長1名、事務局長1名および各構成団体、個人会員の中より選出される委員。
  - B 委員長は、この連盟を代表し、委員会を開く。
  - C 各委員の任期は、定期大会から次の定期大会までとする。
- 第7条(財政) この連盟の会費は、個人会員は年額800円(学生500円)団体会員は1名につき600円(学生400円)とする。
- 会計年度は歴年とする。
- 第8条(会計監査) 前期の委員長が会計監査を行ない、大会で報告する。
- 第9条(規約改正) この規約は、大会の決議がなければ、変更することができない。

1972

## HELの秋の強化合宿

9月15日から3日間、札幌市真駒内にある北海道青少年会館で開かれた。旧オリンピック施設だけあつて、まったく豪華なふん囲気の中で猛勉強。参加者は、相沢、江口、大友、兎玉、河口、黒川、沢谷、清水、菅田、藤井、水上、吉原（札幌）、星田、北島（苫小牧）、荒家（名寄）、米山（大樹）、はるばる東京から飛んで来た s-ro 梅田節子、講師として千才にいたる s-ro 三ツ石清、それに仕事の関係でたまたま来札していた、大阪は Rondo Espera の s-ro 栗原博もかけつけてくれ、総勢19名

初日午前中は、交通の便その他の理由で、予想どおり(?) 11時から初級クラスのみ開講。

第1日は、初級クラスはポーランドで製作されたレコード "Ĉu vi parolas esperante?" を教材に聴覚教育。中級は将来の初級講習会の gvidanto 養成のための第一歩として、La Teksto Unua とその講師用トラの巻を勉強。

第2日目；午前中、初級は La Unua を教材に読みを中心に、中級は "La eta Princo" (星の王子さま) の最初の10数ページを鑑賞。午後は3時まで卓球を楽しみ、dabilado に花を咲かせたあと、3時から初級は La Unua の第12課、中級は s-ro 相沢による Zamenhof の詩 Al la fratoj と "Hamleto" からの一節の朗読研究。夜の部は、道内からはただ一人ポータランドで開かれた世界大会に出席した s-ro 星田の大会参加報告（詳しくは次号に）。ひきつづき、s-ro 三ツ石による "Deveno de Esperanto" とその variantoj (諸本による同異) について熱のいつた講義。

第3日目；初級はふたたび "Ĉu vi parolas esperante?" の復習と会話の練習。中級は "La Unua Kongreso de Esperanto" (el PAŜOJ AL PLENA POSEDO, paŝo kvina)、それに "Bulonja Deklaracio" (el HISTORIO DE ESPERANTO de E. Privat) をテキストに s-ro 三ツ石の講義。午後からは "自己紹介・他己紹介" の楽しいひととき。とくに、大樹町晩成のホロカヤントーで小さな食堂を夏期のみ開いておられる s-ro 米山のホロカヤントーの観光案内をかねたお話しが一同の興味



## 合宿をふりかえてみて……

——主催者側の件——

会場は予想以上に立派かつ、昨年のような制約もなく、もつぱら商業ベースであり、自由に使うことができた。食事は少々高い割りにはマズかつたが——。

合宿をふりかえてみると、いろいろと不満足なところがあつた。今回は、事務局が多忙であつたため、場所の選定、合宿のプログラムの決定もおくれ、したがつて、講師の依頼、連絡などに関して手のまわらないところも多く、プログラム自体にも多少無理な点があり、せつかく準備された講義の時間を保障できなかつた点をおわびします。全体的にスケジュールが盛りだくさんすぎて、自由な(夜の) *babillado*(?)の時間がたりなかつたような気がします。次回からは、連盟としてこの種の行事(大会も含めて)を開くとき、必ず実行委員会の形式にし、十分長い期間をかけて準備に万全をつくすとともに、その行事のねらいを、各ロンドの日常活動と有機的に結びつけ、活動全体の中できめこまかに、かつ、明確に位置づけておくことが必要ではないかと思われまふ。

開催地が札幌であつたため、札幌以外からの参加者が少なかつたのは残念。以後、合宿に関しては、遠方から来る人に対して(特に、活動の将来をになり *novaj komencantoj* に対して)いくらかでも交通費の援助を真剣に考えていく必要があるかも知れません。(Sawaya, Y.)

## 各・理・の・う・ご・ま

- ★ NHK-FM 放送(空蘭) 9月28日午後6時「夕べのひととき」に藤本アナウンサーと星田淳氏の対談。反戦フォークをまとめたレクムネー線からの放送。
- ★ NHK-TV(空蘭)「北海道の志」に「私とエスハロラント」と題し。
- ★ EKSPozICIOJ : ①苫小牧エス会, 10月29日~11月1日, 苫小牧市民会館で。  
②函館の北大水産学部エス会(11月3~5日)で, HESの  
後援をうけて, s-to 高野が企画。(詳しい報告は後号)

### 3日間の合宿で

菅田 郁子(札幌)

「ニュー・タウン」そんな言葉がびつたりくる人工的な街、真駒内の青少年会館で3日間の合宿が行なわれた。

気が進まず参加した私だが、先ず参加して良かったの一言につきる。

天候には恵まれず、台風の影響で2日間は大雨となつてしまつたが、そんな事はあまり気にならない程、合宿は熱っぽく、エネルギー的な人達の集りだつた。

私は、仕事が休めなかつたので、第1日目の15日と16日の夜、そして17日と部分参加だつたが、それなりに充実していた。

おもに、録音テープによる学習だつたが、私の日頃の学習方法が誤りであることを、イヤという程味わつた。それは、一番大切な読む、聞くを疎かにしていたことである。内容が理解できてないと不安で、つい意味を調べることのみに集中していた。そのため読むことが二の次についていたのだ。今まで講習会でも、先生が意味よりも耳で慣れよ——と言つていたのに、私は全然無視していた。おおいに反省させられた。

しかし、合宿に参加して良かったと思つたのは、学習の仕方の悪さを知つただけではなかつた。エスペラントに対する私の姿勢を得たこと——この収穫は大きい。

私は今迄、迷いながらエスペラントを学んできた。只、好奇心で始めただけに、難しくなつてくるとイヤ気がさしてきた。止すか、止すまいかその思いながら、講習会に顔を出していた。初めの頃のような熱を失い、学習も疎かだつた。それでも思い切りよく止められなかつたのは、やはりエスペラントの何かが、少しづつ私の内部に浸透していつたのだろうか。イヤになつた反面、スツバリと線を切れなくなつている自分を発見してやるたえた。知らず知らず、エスペラントは私にとって必要不可欠なものになつていつたのだろうか？

7月の大会に出席した際、「自分はなぜエスペラントをするか——目的を持たなければいけない」と他のエスペランティストから言われた。私は目



的なくエスペラントを始めた。だから、必然性を感じないから、熱を失い迷うのだ。自分にとってエスペラントとは何か—— 何人のために—— どうして

。ザメンホフは言語の違いから起こる民族間の争いをなくし、平和な世界を作るために共通の言語としてエスペラント語を考え出したという。

私にはこんな経験があつた。高校2年の時。私は当時稚内に住んでいたのだが、稚内には米軍キャンプがあり、米国人とその家族が相当多く住んでいた。狭い街なので彼らと接触する機会に恵まれていた。

ある時、中年の男性に「あなたは日本をどう思いますか？」と聞かれた私はまごついた。その答えを英語で言えなかつた。どう言つたらいいのかとモジモジニヤニヤ—— 日本人の最も悪い態度を私はしていた。すると彼は、タドタドしいが日本語で「日本人はダメですネ。自分の国について意見がないのだから——」と輕蔑したように言つた。私は腹が立つた。日本語で「なんだ、お前の国の言葉で答えられないだけだ。バカにするな——」と毒づきたかつた。只、悔しかつた。なんとか英語がペラペラ話せるようになって、外人と対等に話したいと考えたりしたが、それも時がたつにつれてバカらしく思えてきた。なぜ、他の国の人と話す時、自分の国の言葉をすてなければいけないのか。日本人が他国へ行つた時は良いとしても、日本に居てまで外国人にこびをふるう必要はないではないか。

そんな訳で、エスペラントを始めた動機の一つには、執念？も湧つていたのでは——。

しかし、エスペラントもやはり一つの言語である。いくら人間が人工的に作つたものと言つても、1日や2日でおぼえられるものでない。それを修得するには、努力のみであろう。そして多くの時間がかかることだろう。私にやりとげられるだろうか。途中で止めるなら今の障りもいい。ただ、漫然としているのでは、エスペラントは重い。重すぎる。尤もに、言語のもつ優劣感なしに使うことができる。が、日本人である私には、過去の悔しさをのぞいては、あまり必然性は感じられない。

でも、エスペラントはそれだけではなかつた。合宿に参加している人達は、皆エスペラントテストであることに情熱と意義とを携つているようであ

つた。いろいろな職業の人、年代の人……、それらの人々が一つになることは難しく、容易ではない。それぞれの人が、それぞれのエスベラント観を持つていて、そして一つの目的のために考え、求めあう。

誰でも戦争はいやだ。しかし、日常の生活の中で、小さな戦争をおこしてはいないだろうか。人間は愚かだ。人間が人間を抹殺して、真の幸福はあるのだろうか。思想や考えが違ふと憎み合い。感じが悪いとそつぽをむいて、お互いをみとめようとはしない。人間つて悲しい。

たとえば、私の存在が小さな石ころに等しくても、何かの役にたてるなら私は世界の平和のために何かをしたい。大きな平和は、先ず小さな平和から、小さな輪から大きな輪を作ることによつて、皆の幸福せを見つけたい人間は手をつながなくては……。武力では平和はこない。少くとも私たちから手をつなぎ、輪を大きくして、この世から戦争などという悲慘で、エゴイズムで、人間性を失つたものを消滅できたら。

私は、エスベラントを学ぶことによつて、自分の平和、友人の平和、家庭内の平和、自分の住む国の平和、自分の国のある地球の平和を常に考え、行動する人間になりたいと強く思つた。

合宿は終つた。気が進まず参加したが、参加して良かった。もし、参加していなかつたら、相変らずフラフラとして、エスベラントも止めていたかもしれない。そしてまた、自分を見失つてしまつたろう。なによりも、私は私を発見できたのだから――。

帰途、ますます激しくなつていく雨の中で、ひどく清々しく、そして又熱い血が体内を走るのを感じた。これからの私の人生のように、エスベラントを学ぶことは多難であらう。しかし、やるぞ！ 私はそう決心した。

雨はその象徴のようだと思ひながら――。

## はじめて 北海道エスペラント大会に参加して……

河口 政子 (札幌)

朝霧の中で小鳥の声を聞き、初夏の緑を見ていると もうそれだけで、日常の諸々の嫌いなことを忘れかけ、昨日まで知らなかつたエスペラントとは、これなんだと思ひながら、なんとなくおかしくなつて、仮にエスペラントの国があるなら、そこには、朱や黄色の四季折々の花が沢山咲き(ただし、南国の花のように大柄なものではなく、高山植物のように、北国の花のように小さな花びらのものが多い)、この国の人々は、やりたい仕事をし、着たい服を着(勿論洋服なんてのは、習わなくともよく)、人を使つたり、使われたりの関係もなく、その上、食べ物は、自然が山の幸や海の幸を豊富に与えてくれる。しかし、ここは、南太平洋の島々のように真黒になるような暑さにはならず、常に五月のようなさわやかな風が吹いているのである。そして、膚の色の違う人達がこの国の言葉を使つて生活しているのです。そんな楽園じやないかと思ひこみ、もしそんな中で一生を過ごすことができたら、どんなに素晴らしいことかと、なまけ者の私はついつい思つてしまふ。

月見草の花びらが開く瞬間、その瞬間を眺めるために生きているんだよ、とおつしやつたあるベテランのエスペラントの、その言葉が今も私の心の小さな部分に、消えかけたローソクの炎のように残っている。都会で生活している自分が、現在の仕事、複雑な人間関係、友人達、自分をとりまく息苦しいそれらの事で、くたくたになり、ともすれば見失つてしまひそうな自分自身を、忘れかけていた人間の良い部分を、ちよつと呼びおこしてくれたのは、あの緑と、それにとても人間的、かつ誠実なエスペラントの方々の中にあつたからではなかるうかと思ひのです。

夕食の時、自己紹介の時、とても上手な挨拶の後で、エスペラントを始めて一カ月目ですという澄んだ明るい声を聞き、ああ、私達と同じ人々もいるんだなあと思ひ安心したものでした。

やがて、多くのベテランの方々の体験談の中から、これまでにちよつと聞いたり、かじつたりしてきた私の数少ない(?)語学の知識・英語、仏語、中国語、伊語ともちよつと異なつた、長い長いエスペラント語のお話を聞いたのです。

ある方は、時々大きなゼスチャアをまじえながら楽しそうに、スムーズに体験談を語つていらつしやいました。(多分)

でも残念なことに私は、ボカーンとして、これらのお話を聞かなければなりませんでした。そしてそれは、まるで部厚い原書を、辞書をも持たずに、一生懸命読んでいるようで、とても疲れることでした。しかし、会場には、笑いがあり、そしてみんなは、和やかなうちにも真剣に目と耳をかたむけている様子でした。それでも時折、おぼえたての単語を耳にすると幼児が絵本の中で知つている動物をみつけて喜ぶ時のようにほほえんだものでした。Dankonと言う言葉がスムーズに出てこなく、また、それを言つてみることもさえ、何か気恥しくてテレていた私。

時々シャワーのように降りかかる雨に送られながら急勾配の坂道を急いでいると、暗くなりかけた緑の中で、雨にうたれながらも、それに負けないうようにいつそ白さを増して咲いているサビタの花をみつけ、もつともつと話せるようにならなければと思つたものでした。

そして、雨のあがつた新緑の中山峠に爽やかに をみつけた時は、札幌に向うバスの中でした。

今、新しい単語が一つ一つ増えていくごとに私の夢は広がり、単語が会話となり、そしてお話をも聞けるようになり、更には話してあげられるようになり、やがては・・・と、はてしなく広がっていくのですが、隣のマンガ本に手がのびたり、諸々の誘惑に負けて勉強を怠る、なまけ者なのでございます。

## ひ・と・こ・と

わたしは、この前、4月発行の GRAJNOJ EN VENTO をスイスから送ってもらい、こつちの子どもの作品を今日包装したところです。経費として国際返信券を4枚送れというので、郵便局にいつたところ、窓口では話が分らず局長と対面、「今ないので後でとりよせる」といわれ、数日後、配達されたものは、どう考えても葉書としか思えません。電話で話をしたところ「苫小牧からこれしかないといつてきた」の一点ばり。結局、再度調査してもらつたところ、やはり葉書でありました。とにかく、こちらは「エスペラント文通案内」一冊が頼りで、郵便局はまつたく役にたちません。

ところで、この前、LEONTODO と一語に送つていただいたエス文の北海道案内を先日ひろい読みをしました。De la stona evoko, en Hokkajdo vivis diversaj triboj, el kiuj la plej potenca kaj konata estas la aina. とあり、つづいて北海道の開拓を述べ Hokkajdo sangis sin de forgesita sovaga foro al nuna moderna kaj viveca insulo .... とあるのはどうしたことなのでしょう。Aino はどこにいつたのでしょうか。

Aino の民族性、人権を奪つた北海道百年に即応するかのようなパンフレットを出した H E L が、今、アイヌの伝統文学の紹介にのりだしていることにわたしは矛盾を感じるのです。こういふと、山賀さんあたりから severa kritiko だといわれるかもしれませんが、わたしは、自分の声は何一つ反響をもたらさないだろうということを予測しながらも、やはり言うことにしました。

向 井 豊 昭 (日高)

## *Lastatempre mi.....*

佐々木 雅 彦(千才)

新聞で初めて知つたことは、エスペラント。さつそく事典を、切手収集家たちの国際通信に用いられたりする。そのころ切手収集に夢中だつたぼくは、すぐ講習会に通ひ始めた。そして、国際文通による切手収集も知つた。切手はほしい。けれども先天性?の筆不精、加えて勉強不足による実力不足、上記によりいまだに文通を始めることに踏み切れないのです。さらに、アマチュア無線、BOL(放送を聞き、レポートし、放送局から受信証をもらうこと。)への熱伝導により切手収集への関心がうすれつつある今、ぼくの文通開始は相当の時間を必要とするでしょう。けれども、ぼくとエスペラントの関係には問題はないでしょう。アマチュア無線の一部でエスペラントは使用されているし、海外の放送を聞くためには外国語の知識は必要ですから。

エスペラントを始めて約一年間、熱心なエスペランティスト池本氏について、エスペラントの北海道大会、千才エス会で行なつた展示会などに参加して、エスペランティストの仲のよさや気軽に声をかけてくることに驚いたものです。ただ、展示会で「エスペラントとは国のないことばだね」と言われてその時うまく説明できず無視されたことが心のこり。

エスペラントを始めて約一年(学習進度約三日)、なにぶん気の変りやすいぼくですが、なるべくつづくよう努力します。

佐々木君は中学3年生、連盟に登録されている会員のうち最年少、将来が期待されます。—— Red.

## "Hokkajdo" という表記について

相沢治雄(札幌)

Leontodo N-ro 44(1971-DKT.)に、苫小牧の星田さんの連盟、大会のEsp.表記法についての中で、札幌エス会の機関紙LA URBOの1935年Julio-aŭgustoの表紙にすでにHokkajdo JAPANUJOが使われていた事が報道され、星田さんの私見として、1935年、36年前(今年からは37年前)にすでにHOKKAJDOを使つたSES(札幌エスペラント会)の見識に感心する、と大そうほめて下さいました。(この文は36回の北海道大会のKONGRESLIBROにも転載されました。)しかし、Iの代りにJを使つたのはもうちよつと古く、1933年、第2回北海道エス大会の報告書La Raporto pri La Dua Esperanto Kongreso de Hokkajdo 1933 Sapporo Esperanto Unio kaj Hokkaido Esperanto Ligo(編輯兼発行人 相沢治雄)と書かれたのが初めてです。このJは表紙のかざり字体にだけ、恐る恐る使つたので、その外報告書の内容等には一切Jは使いませんでした。

私は、HOKKAJDOとJを使つて見たらと思つたのは次の理由からです。

HOKKAIDOと書いた場合、外人Esp-istoはホツカイトと聞こえるという懸念がある。また、何かHokka 又はHokkoというものがあつて、そのidoのような感じがする。いつそエス式にHokkajdoと書けばホツカイドー又はホクカイドーと読めるだろう、ということで試みにJを使つてみたのです。聯盟の名称は規約にあるのでそのままIとし、本文中にもJを使用したことはありません。表紙は装飾用の字体を用いたので、これだけJを使つてみたのです。

果せるかな、当時苫小牧に居られた渡部隆志先生(1971年35回全道大会、苫小牧にも出席された。)から、(ぬえ)的な表記であると手ひどいおしかりを受けました。

つまり、ローマ字でもなくエスペラントでもない、でたらめな表記だということです。

理由は、私も気にしていたKKにあるようです。dekkvin と書いた場合、Esp-isto はデククワインと読み、エスペラントに促音がなし、

意味を分からせるためと、習慣もありで、デックグインとは読まないでし  
よう。それでは kokko(単球菌)や Bakko(バツガス)の場合はどうでし  
ようか。(当時の辞書には Kokko はなかつた。Bakko は Bakho  
Bakuso になつていた。)コツコとか、バツコとか読む人がいるかも知れ  
ませんが、だめだとは言いきれないと思います。

HOKKAJDOの場合も前にも記したようにホクカイドーと読む外人がいて  
も意味は分かるし、ホクカイドーとかホツカイドーとか言われるよりは、  
北海道の正しい発音に近いと思つて使用したのです。もし、ホツカイドー  
と読んでくれれば、エスペラントに促音がないという原則に反する矛盾は  
ありますが、北海道の正しい発音に近くなると思います。

また、HOKKAJDO の形も考えて見ましたが、促音がなくてエス的かも知  
れませんが、北海道の発音に遠ざかるような気がして使つたことはありません。

そんなことで、Jが初めて用いられたのは1953年で、その後、札幌  
エス会の機関紙にも使用するようになり、道内のE-anojの間でもしばし  
は使われていましたが、1968年HEL発行の観光案内HOKKAJDOで  
一般的に使われることが決定的になつたと言えましょう。

(44) 体はタヌキ、脚はトビ、手足はトラ、声はト  
ラツグミに似た怪獣。

今から参加の準備を! (愚か笑つても死にWU!)

esperanto monon kaj lernadu Esperanton!  
1973年5月3~6日、静岡県焼津市

初夏の(北海道はすでに!)「全国合宿」、定員150名。  
一夏参加したら病みつきになるよ! gajmuloj (種神約)にわたる天国!

1973年8月11~13日、14日~15日、「日本大会」+ KLEG「林間学校」

日本大会は急用で、ひまつぎ林間学校で勉強を!

日本大会参加費は12月末まで申し込めばたんの¥800。(半日1500円)  
36日林間学校に参加する人には100円の割引!



## ESENCO DE TANAKA-KABINETO

S-ro Kakuei Tanaka, la ĉefo de la nova kabineto, kiu startis en eksterordinare entuziasma subtenado de amaskomunikoj, gajnantas popularecon en la popolo kiel popolanĉefministro kaj publikigante "La Plano por Reformi Japanion (日本列島改造論)-n kaj veturante al Pekino por restarigi la diplomaciajn rilatojn kun Ĉinio. Sed tamen ni devas pripensi, kion li intencas tra la 'plano' kaj 'restarigo' ambaŭ. Plue la 17-an de Oktobro lia kabineto decidis reformi=malbonigi la trafikajn leĝojn por ke la usonaj militaŭtoj---precipe tankoj---povu libere ĉirkaŭkuri en nia lando, Japanio. Nu, ni studu ilin.

### I. Pri "La Plano por Reformi Japanion"

Laŭ onidiro "La Plano por Reformi Japanion" skribita de s-ro Kakuei Tanaka vendiĝantas tre bone, sed kion li ja intencas diri en ĝi? Al ni ŝajnas, ke li deziras esprimi, ke li rebonigu=rekonstruu Japanion riparante forgesaĵojn kaj deformon kaŭzitaĵojn de la intensa kreskado. Tamen antaŭ ĉio ni devas atenti, ke li ĝuste antaŭ tiam, kiam li fariĝis ĉefministro, estis 'ministro pri komerco kaj industrio', kaj li ĉiam staris en la flanko de la grandaj industrioj = monopolkapitaloj kaj li neniam diris ian eĉ vorteton pri gardi ĉirkaŭaĵojn de la popoloj per sia buŝo. Se li nun parolas pri la bonstato de la popolo, tio estas nenio alia ol popularecogajna ago.

Kaj la enhavo de t. n. "La Plano" estas nenio alia ol adaptiĝo de 'la nova plano por ĝenerala ekspluato de la tutlando' (新全略 NPE) publikigita en 1969, kiu estas la sekvanto de 'la plano por ĝenerala ekspluato de la tutlando' (旧全略, PL) publikigita en 1962. La signifo de NPE deklaratas jene:

"... hodiaŭ, kiam ni atendas la turhopinion al la nova futuro t. n. la informa socio dum la progreso de tutlanda urbegiĝo, ni montras la fundamentan direkton de ĝenerala ekspluato de la lando, kiu estas la bazo de longdaŭraj agadoj de

la popolo de nun..."

Kaj tiu plano efektiviĝas laŭ la vidpunkto longedaŭra (plaperiodo estas de 1965 ĝis 1985, nome dum 20 jaroj). En Hokkaido la orienta parto de Tomakomai nomatas kiel kandidato de 'ultragrandaj industriaj bazoj'.

Sed la realstato de NPE estas kaj tutlanda disĵetado de malpurigoj kaj grandskala detruado de la naturcirkonstanco. Tian planon ne povus akcepti la loĝantoj de tiuj distriktoj, kaj fakte pere de fortaj opoziciaj movadoj de la loĝantoj la efektiviĝo de la disvolvplanoj de ĉiuj distriktoj fariĝis malfacila.

Ankaŭ la plano de 'tutlanda restaro', unu el la ĉefaj planoj de NPE, ekzemple retoj de ultrrapida transportado, de informado k.c., estas la plano por la monopolkapitaloj, por ni nura popolanoj tiu plano estas senprofita. Ĉiuj semajngazetoj admiras, ke s-ro Tanaka skribis la libron, "La Plano por Reformi Japanion", por la laboristoj-popolanoj, sed la fakto estas ke li intencas fari mediojn senmalpurigan, prezstabilan, loĝtaŭgan kaj vivtaŭgan. Koncentriĝo al urbegoj de popolo kaj malkultigo al vilaĝoj kaj urbetoj, tiujn kausas la registaro kiu estas "en konsultaj rilatoj kun" la monopolkapitaloj. Ju pli grandiĝas la problemkonscio de civitanoj pri la malpurigado, des pli la registaro-monopoloj devigatas <sup>malakcepti</sup> marŝi. Estas la plej bonaj ekzemploj, ke la pacientoj venkadas en la serioj malpurigjuĝoj.

Sed, karej legantoj, la registaro kaj monopolkapitaloj intencas disĵeti la malpurigajn fontojn al la tuta Japanio. Ni ne forgesu, ke tio estas ne malgrandigo de la malpurigado, sed la tutlanda disvastigo de la malpurigado.

## II. Pri restarigo de la diplomaciajn rilatojn inter Japanio kaj Ĉinio

Estas necese diri, ke la normaligo de la diplomaciaj rilatojn inter Japanio kaj Ĉinio estadis la longdaŭra granda deziro de la japanaj laboristoj=popolanoj. Sed tiuj estis la monopolkapitaloj kaj la Japana (kontraŭ-) Liberaldemokratia Partio kaj ilia registaro, kiuj malhelpadis la renormaligon. La krimuloj veturis al Pekino kaj restarigis la diplomaciajn rilatojn kun Ĉinio. Sed tamen ili intencas trafi du celojn per unu ŝtono, t.e. kontentigante la ambicion de la japanaj monopolkapitaloj kiuj bezonas la elfluejon de malfacileco pro severigo de mondokonkurenco kaj troproduktado, kaj samtempe ŝajnigi kiel ili respondas al la postulo de la popolo. La nova kabineto de s-ro Tanaka antaŭenpuŝas unuflanke la renormaligon kaj aliflanke plifortigon de armado per "La 4-a Plano por Gardi Japanion (四次防)", kaj plie ĝi subtenas la invadadon de la usonaj imperiistoj en Vjetnamion.

Ni klarememoras, ke la singarda armeo marŝis al Okinavo post ĝia redono sub la iniciativo de la kabineto de ESTIMATA S-ro Sato. Tiu marŝado celis malgrandigon de ŝarĝo de la invadmilito en Vjetnamio de usonimperiistoj, per ke la japana ARMEO anstataŭas la rolon de Usono en ekstremorienta ligo kontraŭ komunismo.

Ĉiuj malbonoj de eksĉefministro Eisaku Sato elmetadas sub la hela suno, kaj ni devas senmaskigi s-ron Kakuei Tanaka. Li sinkovras per popoleca masko, kaj per niaj unuecaj fortoj ni devas frakasi tiun maskon. Nun la ĝenerala elekto alproksimiĝas. Por la bela estonto ni subtenu la demokratiajn fortojn!

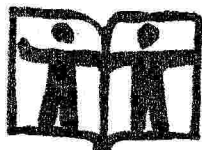
Batfalu Tanaka-Kabineton!

Frakasu la 4-an Armean Planon!

◎ 8—ro 屋田 淳；ポートランド大会に

"Hazarde, devigite de kaprica situacio, mi decidis partopreni la 57an Universalan Kongreson en Portlando, Usono, la ĝemela urbo de Sapporo. Mi kunportos esperantigitan turisman libreton Tomakomai, kies urbestro donis al mi kvindek mil enoj por herpo."

7月23日、有志8人が千才の中里先生宅で壮行会を。次号に大会参加報告が載るはず。



*Mi vendis esperantajn librojn, kaj.....*

72年は Internacia Libro—Jaro (国際図書年) というふれこみで今年も Librejo VERDA STELO の即売店を大会会場に設けた。売上げは大小約60冊、21,400円。"商売"の上からは、売つてしまえば acetintoj とはもう何のかかわりもないのだが、この秋の夜長、どんなに初歩的な本でも、薄い本でも、買った本は必ず読んでほしい、研究してほしい、esperantisto として一人前になつてほしいと思うのは虫がよすぎるだろうか。

(Malseri Ozulo, Sapporo)

◎ 8—ro 関尾憲司；7月2日から就職が決まり、急拠東京へ。

"まだ就職する気はぜんぜんなかつたんだが・・・"とは本人の弁。

6月25日、札幌の有志数人で簡単な"送別会"をもつた。

新住所；112 東京都文京区大塚3～21～2，

Venku la Socialismo!

tel (03) 945—1687

Ĉiuj revoluciaj Esperantistoj kolektiĝu sub la ruĝa flago de la Ligo de Esperantistoj Revoluciaj!!

respondeco estas ĉe

*Aleksej Andrejeviĉ Aleksejev*  
(Aleksej Andrejeviĉ Aleksejev)

## Kio estas la duonkonduktanto?(2)

Iĉikaŭa Tadaŝi (Hakodate)

En la frua periodo, esploristoj volis produkti laŭpove puran duonkonduktanton. Sed post nelonge, ili eksciis pri la variado de karakterizaĵo per la enmiksita malpuraĵo. Tio estas jene.

1. Germaniumo (aŭ silicio) enmiksita fosforon, arsemon aŭ antimonon fariĝas duonkonduktanto havanta minusan elektra-ŝargon. Ĉar tiuj ĉi elementoj havas kvin liberelektronojn, pro tio en la kristalo aperas superfluaĵ elektronoj. Ni nomas ĝin n-tipa duonkonduktanto.

2. La duonkonduktanto enmiksita boron aŭ aluminion havas plusan elektra-ŝargon. Ĉar tiuj ĉi elementoj havas tri liberelektronojn, pro tio en la kristalo mankas elektronoj kaj la traŝ aperas. Ni nomas ĝin p-tipa duonkonduktanto.

Diodoj aŭ transistoroj kiuj estas senaombre uzataj en nuntwagaj elektronaparatoj, konsistas el la kunigo de du aŭ tri duonkonduktantoj. Ekzemple, komputero efektiviĝis sur la bazo de la duonkonduktanta tekniko kaj binara sistemo. En ĉi tiu mondo, miliardo da sekundo estas jam uzata kiel la tempo unuo. Dum unu miliardo da sekundo la luno marŝas nur tri dek centimetrojn.

En la unua periodo, komputeroj uzataj vakuatubojn estis tre gigantaj, kaj konsumis grandan kvanton da elektropovo. Pro tio, estis neeble utiligi komerce ilin. Tamen nuntempe komputeroj estas multe utiligitaj ne nur en oficejo sed ankaŭ en privataj entreprenoj. Kaj en proksima estonteco, La tekniko de telefoninterŝanĝo okulfrape disvolviĝos.

Sed aliflanke homaj vivej estus tute kvantigitaj kaj registritaj, fine elrabitaj siajn privatecon kaj spiritan liberecon. Estas administrita socio regita de burokrataro. En tia socio, spite de materia abundo, homoj perdos siajn vivantajn celojn. La neceso de harmonio inter homoj kaj scienca tekniko estas ne nur en la okazo de malpurigo de aero aŭ akvo.

Ĉi ĝenerale supozas radioaparatojn aŭ komputerojn rilate al duonkonduktantoj. Sed sur la kampo de elektropovo ankaŭ tiuj ĉi estas multe uzataj. Nome, tio estas rektifilo nomita "silita". Ĝi konsistas el kvar duonkonduktantoj, kaj rektifas grandan elektropovon. Fama "Sinkansen" en nia lando, estas speciala ekspreso kuplinitaj tramojn. Ĉi tie uzas vere d-ndek mil vortojn da aliferna elektropovo. Tio estas ŝanĝita al kontinua kurento pere de multaj silistaj alifiksitaĵ sub la planko de tramo, kaj fariĝas movoforto de pli ol du cent kilometroj po horo. Estas admirinda ekzemplo de aplikado de duonkonduktanto.

## S-ro Wijmer からの K&J

昨年9月 ひとりに オートバイで来道し、合宿にも参加した オランダの青年  
s-ro Wijmer から、無事帰国に着いた時の手紙が きました。(Sawaya.Y.)

Hago, la 17an de oktobro, 1972

Kara amiko,

Kun granda ĝojo mi legis vian leteron kaj "Leontodo"n, speciale vian artikolon pri via vizito al Osaka (feb. 1972). La kaŭzo kial mi skribas vin estas, ke mi alvenis hejmen nur antaŭ 10 tagoj. Mi scias, ke s-ro Burg, kolego de mia patro, jam respondis vin. (28. jun. kaj 23. aŭg.) Ambaŭ leteroj enhavis iom pri mia afero en Irana malliberejo de urbo SARI.

Nun mi povas skribi vin, ke la proceso okazis la 5an de septembro. La verdikto estis 6 monatojn da malliberigo, sed feliĉe oni nuligis ĝin. Alivorte, mi tuj fariĝis LIBERA!

Ĉu bone, ĉu ne? Mi bezonis ankoraŭ 2 semajnojn obteni oficialan permeson forlasi Iranon. Pro la 3½ monatoj de malliberigo, mi estis permesita resti 30 tagojn en Irano. Kaj la tagoj forpasis. Jen, la 20an de septembro, mi finfine forlasis la landon per vagonaro al Istanbul. Ankaŭ mia "Honda" kunvojaĝis per la sama vagonaro (per speciala vagono, kompreneble!). Mi atingis tien la 24an de septembro, kaj kontinuis mia vojaĝo per motorbiciklo laŭlonge de Vieno, kie loĝas eksf-ino Reiko Jano el Hamamacu. Nun ŝi estas s-ino Ustensky. Poste al Basel. La 6an de okt., fine mi atingis mian domon ĝustatempe, ĉar la sekvanta tago estis naskiĝtago de mia patro.

Certe mi volas skribi en via organo, sed unue mi volis skribi vin persone. Bedaŭrinde mi ankoraŭ ne renkontis s-inon Woessink-Nagata, (Estas surprizo legi, ke ŝi edziniĝis) sed certe en unu semajno mi vizitos UEA en Rotterdamo.

Mi ricevis ankaŭ bildkarton de s-ro Misawa (Ronde Espera, Osaka) senditan dum la 36a Hekkajda Kongreso. Dankon al Hekkajdaj E-istoj.

Bonvole transdoni miajn elkorajn salutojn al d-ro Yamaga (Otaru), s-ro Hošida (Tomakomai), s-roj Ikemoto (Ĉitose), f-ino Kitabatake kaj la aliaj E-istoj en Tomakomai, kie mi tranoktis, kaj al samideanoj en Hakodate kaj Muroran.

Ĝis revido!  
amike

ハンス ヴェイメル.

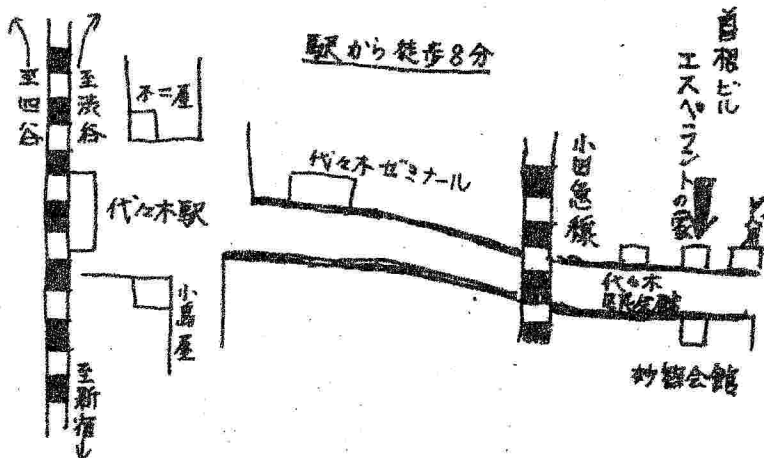
東京の ESPERANTO — DOMO ( エスペラントの家 ) が移転

南ヶ谷にあった E — DOMO は、5月15日から代々木に移った。

nova adreso : 東京都渋谷区代々木3〜46〜17, 會根ビル502号  
電話(03)379〜4614. 東京へ行つたときは、ぜひこの E — 運動の新しいトリデへ立ち寄り。財政的には、今までより一段と厳しくなつたのでできる限りの援助を！(維持会員および一般の寄附をつつています。)

振替 エスペラントの家 (東京) 2605

(エスペラントの家近辺の略図)



北九州にも Esperanto-Domo まで3!!

Kitakyūshū, la 5an de nov., 1972

Estimataj sinjoroj,

Ni havas ĝojon sciigi al vi pri nia nova oficejo; nun ni sukcesis lui unu ĉambron kiel nian propran oficejon.

Kvankam ĝi estas modesta kaj ne-sufiĉe vasta, ĝi donis al ni pli da kuraĝo kaj laborpreteco, kio certe puŝos antaŭen la movadon en nia loko.

Denun poŝtaĵojn adresitajn al nia societo, ni petas, sendu al nova adreso jena:

803 北九州市小倉区上町津本町4-183

Kun sinceraj salutoj

via

北九州エスペラント会

## PROTOKOLO de la 36a Kongreso

第 36 回北海道エスペラント大会は、7月8日(土)と9日(日)にかけて、札幌市郊外の中山峠健民センター・トレーニングハウスで、58名(うち不在参加9名)の参加を得て行なわれた。

森閑とした山荘を全館借切り、大会を通じて、存分に同志的な友情を深め合っていただころとの趣旨から、この場所を選んだのだが、あいにくと猛烈に吹きまくる雨にたたられて、出席者の出足もにぶく、結局、大会のプログラムを大きく変更せざるを得なかつた。

大会第1日目は、Bankedo から始まり、大阪府豊中市の三沢一弘氏によつて、1968年、札幌市における日本大会記念フィルムの上映と大阪市の進藤静太郎氏による「最近における日本ボーイスカウト・エスペラント運動の現況」と題するエス語講話、あとは各室での *babulado* となつた。

大会第2日目の午前のは、定刻より若干遅れて、まず、札幌市の江口美佐子さん(10才)の可愛らしい開会宣言に始まり、次いで参加者全員によるエスペーロの斉唱、そのあと、議長団として札幌市の児玉氏及び室蘭市の村木氏が選出され、議長団として、児玉氏から「会場であるトレーニングハウスの名にふさわしく、本大会を鍛錬の場として、できる限りエス語を用いるよう」と *severa* な挨拶があり、以下、議長団の司会により議事が進められた。

まず、大会準備委員長吉原正八郎氏の歓迎の挨拶、特に挨拶の中で、開拓初期の札幌と現代百万都市のそれとを比較して環境問題に言及されたことは、時代を反映して印象深い。次いで、平明な構文と発音の流暢さにおいては、まさに模範的ともいえる H E L 会長の挨拶(別掲)があり、来賓の祝辞に移つた。例年、道外からの参加者がふえ、今回は、S-roj 進藤(大阪)、三ツ石(名古屋)、三沢(豊中)、大友清昭(銚子)の4氏の参加を得て、大会をより色彩あるものにした。

来賓挨拶のトップは、U E A の *delegito* として戦前戦後を通じエス運動の発展に努力されている進藤氏、氏はよどみないエス語で、「エスペラントに宿る美しい理念を実現するため、われわれは、まずもつてエス語の実践的効果を押し広めていこう」と述べ、「エスペラントの存在意義と



は何か?」と問いかけ、"それは1905年、フランスのブローニューの第1回世界大会における「エスペラントの本質に関する宣言」にすべて隠れつつある。即ち、「エスペラント主義」とは、中立的人類語エスペラントを全世界に普及する努力であり・・・言々"と。終りにエスペラントの本質とザメンホフの理想をより深く理解するために、1887年、初めて世に出版された「エスペラント第一書」の前文を必読されるよう"との挨拶があつた。

二番目に、すでに7回の渡道でお馴染みの三ッ石清氏(名古屋)が、まず"議長から来賓として指名され当惑している。すでに渡道回数も多く、むしろ、先程の大会準備委員長の来賓紹介に私の名前がのらなかつたことを喜んでいる"との出だしからユーモアを交え、さきの議長挨拶にあつた(大会中のエス語使用のすすめ)言葉に言及して、19世紀末、ロシアのペテルブルグにおける第1回エスペラント国際会議に招かれたザメンホフは"参加者固有のロシア語でわれわれエスペランティストが会議を進めていくならば、どうしてエスペラントの教育的価値を世に広めていくことができようか!"と訴えられたことを紹介し、終りに"ザメンホフの生活、思想や国際語考案の動機などを深く理解するために、是非、1905年、ザメンホフが弁護士ミツシヨ一にあてた手紙を読みたい"とザメンホフの原作書 Originala Verkaro 又は伊藤かんじ著"ザメンホフ"第一巻の贈読を奨めていた。氏のうん著のある話しも、即興的で、かつ、快活、まさに、エス語の"生きたことば"を実証するものであつた。

三番目は、最近の北海道大会に欠かさず出席されている三沢氏(豊中)の挨拶。彼の所属するロンド、エスペーラの現況紹介など、すでに道内に馴染みの多いこともあり、大変リラックスムードで"関西旅行の折には是非お立寄りください"と心温い招待のことばで挨拶を結んだ。

3人の挨拶のあと、議長から大友氏(銚子)の紹介を終り、次に沢谷事務局長から大会に寄せられた次の方々のメッセージを読みあげた。

(1) eksfraŭlino 永田明子(オランダ)、(2) グラコウ・G・ボンビリオ(東京)、(3) 影浦英明(東京)、(4) 堀江精一(遠軽)、(5) eksfraŭlino 渡辺綾子(東京)、(6) 伊藤紫陽(横浜)。なお、その際、事務局長から昨年の秋季強化合宿を共にしたオランダ青年メイマー軍が日本から帰国す

同郷のエスペ란チストの仲介による父親からの手紙によつて紹介された。そして、早速、ペイマー君と親交のあつた同志達が慰めと激励の手紙を出すことを申合わせた。

次に、地方会及び地方の個人会員の活動報告に入り、札幌エス会からは、江口正元氏、小樽エス会から石黒実氏、苫小牧エス会は星田<sup>三郎</sup>氏、室蘭エス会からは平田岩雄氏、函館及び千才エス会は、当日不在のためそれぞれ沢谷事務局長及び三ツ石氏が代つて報告された。個人会員からは、新田氏（由仁）、辰己氏（帯広、彼は、たまたま東京からの久方振りの帰省で、中山峠を立寄り偶然大会のことを知つたという。）、大友氏（歌志内）ほかから自己紹介をかねてそれぞれ挨拶があつた。

HELの年間活動報告は、沢谷事務局長から、各自に配付されたコングレスリプロに掲載されている報告書に基づいて行なわれた。

その後、本日の中心議題である議案（第1号～第3号）審議に入つた。ここまでは、すべてエスペラントで進行されたが、議長職権(?)でこの部分のみ日本語の使用が認められ、活発な討論のすえ、次のように採択された

◎議案第1 北海道エスペラント連盟規約改正案について

北海道エスペラント連盟及び北海道エスペラント大会のESP表記法については、最も議論が白熱し、結論として当分の間、次のように呼称することとし、その他の事項は原案どおり可決。

(Hokkaido Esperanto-Ligo) 及び (Kongreso de Esperantistoj en Hokkaido)

◎議案第2 1972年秋季強化合宿の開催について

期間は、9月15日～17日の3日間に決定、場所その他実施方法は、HEL事務局に一任

◎議案第3

- 1 エス文北海道観光案内の再版について
- 2 道内主要都市のエス文観光案内書の作成について
- 3 アメリカ、ポートランド市で開催の世界大会に姉妹都市札幌市長のメッセージを携行することについて

以上について星田氏から提案説明があり、その趣旨に添つて実現に努力するという事で原案承認。

H E L 役員を選出に移り、選考の結果、委員長高橋要一（札幌）、副委員長国兼信一（函館）、事務局長沢谷雄一（札幌）の三役は再任と決まり各構成団体から選出する委員には、札幌エス会は、小樽エス会石黒突氏、苫小牧エス会星田氏、本日参加のない地方会については、追つて地方会から指名された者とする事となつた。なお、個人会員からは新田（由仁）及び北島（苫小牧）の両氏が指名された。

明年の北海道大会の開催地については、小樽エス会の快諾を得て万場拍手で決定された。

以上、議案審議等のあと、屋外での記念撮影も雨天の中無事に終えて、昼食、休憩となる。

午後の部は、相沢氏（札幌）による La vojo の詩の朗唱、La Teksto Unua の一節を三浦嬢（札幌）が朗読、つづいて星田氏の歌唱指導で楽しく合唱、まだ歌いつづけたい未練を残しつつ、閉会式を迎えた。

H E L 委員長高橋氏の閉会の挨拶に続いて、明年の開催地を代表して江口音吉氏（小樽）から招待の挨拶、Tagiĝo の斉唱、黒川嬢（札幌）による閉会宣言で一切の大会の幕を閉じた。

（追記） 大会中における、(1)議長、(2)大会準備委員長、(3)H E L 会長、(4)進藤氏の来賓祝辞を別掲としたほか、(5)H E L 活動報告、(6)改正後の H E L 規約を添付しました。

La saluto de S-ro, Kodama kiel prezidantaro de Kong.

Kvankam ni ne havas kapablon prezidi laborkunsidon, sed ni estas elektitaj kiel la prezidantaro de la kongreso. Do, ni estas embarasitaj pripensante, ĉu la kongreso estos sukcesa aŭ ne prosperiga fare de nia aĉa prezido. Tamen ankoraŭ pripensante ni estas trankvilaj, ĉar vi ĉiuj kafaj estimataj gesinjoroj kaj geamikoj kunlabore hálpos nin por sukcesigi la kongreson.

Karaj partoprenantoj ! Bonvolu konscii, ke ni nun sidas en la disciplina domo, alinome " Training House ". Koncernante al la domo mi proponas al vi ĉiuj, ke kiel eble plej klopode kaj kurage parolu en esperanto, eĉ se vi dum parolado esperanta renkontus nescian vorton esperantan, tiam bonvole enmetu japanajn vortojn ekzemple; Mi ne ŝatas manĝi SAŠIMION, sed mi ŝatas manĝi JAKIZAKANA. Tiamaniera uzado estas plej efika por altigo de ~~MMH~~ parolkapablo kaj samtempe ankaŭ la komencantoj, kiuj ne bone povas kompreni la tuton, estas plej efika por kutimiĝo de aŭskultkapablo.

laŭ mia opinio, ĉefa celo de la kongreso estas amuziga kaj amikiĝa kunsido. Tamen ankaŭ inkluzivas la seriozecon studi nian karan lingvon internacian Esperanto.

Do, Proponante nur tion mi kore salutas vin.

Dankon !

La saluto de S-ro, Josihara kiel la prezidanto de  
prepara komitato de Kongreso

Mi tutkore bonvenigas gesamideanoj el tuta hokkajdo, la plej  
nordo, Najoro kaj la plej sudo, Hakodate.

Mi estas tre goja akcepti tri gastojn el ekster-hokkajdo,  
S-ro, Ootomo el Cosi, Ciba gubernio, S-ro, Misaua el Tojonaka, Cosaka  
gubernio kaj S-ro, Sindo el granda urbo Oosaka, kiu estas la delegito  
de UEA.

Sapporo estas granda urbo en Japanujo, sed antaŭ cent jaroj  
logis nur sep logantoj kaj multaj ursoj promenadis kaj nun estas la  
miliono da logantoj.

En la lasta jaro subtera tramo komencis kuni kaj en ĉi jaro  
Sapporo dividis sep partojn; Norda, okcidenta, suda, orienta kaj aliaj.

Jaro post jaro aŭtomoviloj multigas sur stratoj en Sapporo.  
Aero kaj riveroj malpurigas. Floroj kaj arboj perdis viglecon.  
La simboloj de la urbo Sapporo estas tri; arbo-lilako, floro-kenvalo  
kaj birdo-kukolo. La lilakojn oni povas trovi en la urbo. La kenvalojn  
oni povas trovi ĉirkaŭ la urbo. Sed bedaŭrinde oni ne povas auskulti  
la kukolojn en la urbo. Kiam mi estis knabo, mi povis auskulti la kuko-  
lojn ĉe la centro de Sapporo.

Ĉi tie estas montpasejo nomata Nakajama-Tooge. Nakajama  
signifas la mezmonton de la vojo el Sapporo ĝis Tooja lago. Ĉi domo  
"Training House" estas ĉirkaŭata per bela arbaro, sed en arbaro granda  
grandaj ursoj promenadis. Oni nomas ilin "Patro de Monto" alinome  
"Jama-Ojaĝi".

Esperante, ke bonvolu diskuti diversajn problemojn en  
kongreso, mi finas mian saluton. Dankon, gesamideanoj !!

La saluto de S-ro, Takahasi kiel prezidanto de H E L.

Estimataj kaj karaj gesamideanoj !

Jam pasis unu jaro de posto de la lasta kongreso en Tomakomai kaj nun ni kolektiĝas denove vidi unu la alian.

Unue mi grätulas vidi vin en bona sano kaj petas utiligi ĉi tiun okazon por interkonsiliĝi aŭ diskuti pri la sankta movado en nia gubernio.

Due mi esprimas elkoran dankon al la prepara komitato de tiu ĉi kongreso, ĉar la komitato aranĝis ĉion por la kongreso en bonegaj cirkonstanco kaj atmosfero kiel vi ĉiuj nun vidas antaŭ mi.

Trie mi havas honoron raporti pri la energia laborado de la komitato de HEL kiel vi vidas iliajn laborojn en nia organo " Leontodo "

Pri la laboro de HEL poste raportos detale de la sekretario. Ĉi tie mi ĝoje anoncas al vi ĉiuj ke danko al via ofero nia ligo gajnis tajpmaŝinon japanstilan kaj ĝi jam bone funkcias. Plie ĝi montris, montros al nia movado fruktplenan rezulton. Mi esprimas tutkoran dankon al vi laborantoj precipe al F-ino, Kitabatake.

Fine mi ree esprimas elkoran dankon al vi partoprenantoj kaj deziras fruktplenan rezultadon de tiu ĉi kongreso. Dankon !

La saluto de S -ro, Sindo kiel la gasto.

Bonan mate-non gesamideanoj ! Mi estas ĉi tie jam hieraŭ posttagmeze kaj kie anoncite antaŭ kelkaj minutoj mi ĉeestis ĉi tiun kongreson, kiel la ~~meza~~ uea-de legito.

Delegito de UEA jam de multaj jaroj efektive mi estis jam juna antaŭ la milito kaj mi idee vivas kiel la funkciulo en granda urbo Oosaka, ĉar la servoj de delegito estas tre ampleksaj kaj mi havas diversajn fakajn delegitojn en nia urbo.

Estas mia deziro ankaŭ en tiu ĉi loko ~~mi~~ nome en tuta hokkajdo al la delegitoj de UEA kaj aktivaj membroj de UEA ĉiam formu fortan kunlaboron por antaŭenigi la praktikan utilecon kaj tiamaniere realigi belan signifon de Esp.

Kio estas bela signifo de Esperanto ? Tio estas tute klara, ĉar estas Boulogne-deklaracio pri Esperantismo. Tiu deklaracio grave deklamis en 1905 en Boulogne-sur-Mer, norda francujo, ke Esperantismo estas penado disvastigi en la tuta mondo la uzadon de lingvo Esperanto.

Kio estas la uzado ? Pri tio aldonas speciale la artikolo de D-ro, Zamenhof. Laŭ mia kompreno tio estas historia fakto, kiun indikas la apero de la unua libro verkita de D -ro, Zamenhof en 1887 kaj pri tio mi legas sufeĉe detale Zamenhofan antaŭparolon de Unua libro. Se vi deziras

pli precize informigi pri bela enhavo de tuta signifo historia  
ankau aktualan signifon de uzado de Esperanto, bonvolu legi ĉi  
tiujn kopiojn, kiujn hodiaŭ mi kunportis. Eble tralegante tiujn  
kopiojn vi komprenus, kiamaniere UEA-delegitoj en Japanujo havas  
aktuale fronte al la situacio en Japanujo.

Per ĉi tiuj vortoj mi anstataŭigas mian saluton !!

---

Al: la 36a Kongreso de  
Esperantistoj en Hokkajdo

Karaj geamikoj

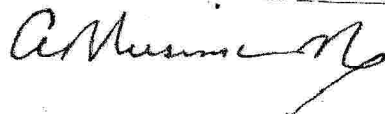
Rotterdam 1972 06 22

Okaze de la 36a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo  
mi elkore salutas vin ĉiujn ĉeestantojn.

Estante en Nederlando, mi ofte pensas pri vi, pri la movado  
en Hokkajdo, pri la varmaj homaj rilatoj inter vi kaj pri  
la estonta evoluo de la homenergio en la movado.

Miaj ĝisnunaj kaj estontaj motoj estas: "Kie estas  
volo, tie estas vojo" - kvankam tio estas malnova  
proverbo - kaj "Laŭeble largigu la vidkampon". Ne estas  
tre facile "forte voli" kaj "ĉiam largigi la vidkampon".

Karaj geamikoj, mi deziras al vi ĉion bonan, kion vi  
atendas de la vivo. Bonvolu saluti tiujn esperantistojn  
en Hokkajdo, kiuj ne povis ĉeesti la Kongreson, - je la  
nomo de via ĉiama amikino



Akiko Woessink-Nagata  
(Vusink)



会費の納入状況(1972年6月30日現在)

◎個人会員400円、団体会員は1名につき300円

1971年分

|                    |                   |        |
|--------------------|-------------------|--------|
| H E S              | 7名(前期事務局取り扱い)     |        |
| O E A              | 11名( " )          |        |
| T E S              | 5名(うち3名前期事務局取り扱い) | ¥600   |
| S E S              | 22名(うち15名 " " )   | ¥2,000 |
| Individuaj Membroj | 23名(うち3名 " )      | ¥8,000 |

北城、那須栄、桜井、大島、平田、渡部、影浦、北島、斉藤千寿  
菅原、仁熊、三浦、新田、竹吉、大友、岡本、向井、中西、福田  
浜田、津村、荒家、堀江

1972年分

|                    |      |        |
|--------------------|------|--------|
| H E S              | 5名   | ¥1,500 |
| O E A              | 8名   | ¥2,400 |
| T E S              | 4名   | ¥1,200 |
| S E S              | 1名   | ¥300   |
| R • N              | 10名  | ¥3,000 |
| T E R O            | 10名  | ¥3,000 |
| Individuaj Membroj | 4名+× | ¥1,700 |

北島、斉藤千寿、田村、津村、岡本(100円のみ)

1973年分

|                  |        |      |
|------------------|--------|------|
| Individua Membro | 1名(田村) | ¥400 |
|------------------|--------|------|

1969年分(今期事務局取り扱い)

|    |         |      |
|----|---------|------|
| 2名 | (影浦、北島) | ¥800 |
|----|---------|------|

1970年分(今期事務局取り扱い)

|    |               |        |
|----|---------------|--------|
| 4名 | (影浦、北島、新田、浜田) | ¥1,600 |
|----|---------------|--------|

会費合計

¥26,000

FINANCA RAPORTO (財政報告)

1971,8,3 ~ 1972,6,30

ENSPEZO

|                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 前期よりの繰越金                       | ¥94,161  |
| 会費(納入状況の項参照)                   | 26,600   |
| 雑収(旗500円、ポスター2,120円、宣伝パンフ750円) | 3,370    |
| 郵便貯金利息                         | 13,792   |
| 第35回北海道大会残金                    | 8,860    |
| 寄附金 S-ro HAMADA 200円           | 5,070    |
| NF紙再編、解散に際して 1,810円            |          |
| 新年会カンパ 3,060円                  |          |
| 和文タイプ購入のための募金                  | 34,450   |
| 合 計                            | ¥186,303 |

ELSPPEZO

|  |        |
|--|--------|
| 事務用品(コピー用紙、ゴム印、アドレスカード<br>原稿用紙その他)       | ¥3,140 |
| 通信費(機関誌の送料をのぞく)                          | 6,365  |
| 切手、はがき 4,302円、封筒 1,525円                  |        |
| 市外通話 548円                                |        |
| 機関誌表紙印刷 1,000枚                           | 9,000  |
| 機関誌印刷、発行(4回)                             | 64,672 |
| 謄写ファックス代 6,000円                          |        |
| 印刷、製本代 34,000円                           |        |
| 西 洋 紙 6,372円                             |        |
| 郵 送 料 18,300円                            |        |
| 個人会員再登録用はがき、あいさつ状印刷費                     | 1,900  |
| 秋の強化合宿案内印刷費                              | 1,500  |
| 宣伝パンフ謄写ファックス、印刷代<br>(1,000枚 2種、500枚 5種類) | 8,500  |

|                                |          |
|--------------------------------|----------|
| 振替口座開設料                        | 50       |
| 謝礼(機関誌発行に際してf-ino Satoo Keiko) | 420      |
| 第36回北海道大会補助                    | 10,000   |
| 和文タイプ購入費                       | 48,000   |
| 合 計                            | ¥153,547 |

差引残高(ENSPEZO - ELSPEZO)

¥186,303 - ¥153,547 = ¥32,756

内訳 (現金 27,332  
郵貯 5,000  
振替 424)

第36回北海道大会会計報告

| 収 入                |         | 支 出      |         |
|--------------------|---------|----------|---------|
| 参加費                |         | 会場宿泊費    | 64,800  |
| 大人 34×2,200        | 74,800  | 通信費      | 2,095   |
| 学生 1×2,000         | 2,000   | 印刷代      | 8,100   |
| 小人 4×1,300         | 5,200   | 写真代      | 3,300   |
| 88日のみ 1×1,500      | 1,500   | 事務費      | 3,216   |
| 9日のみ 5×700         | 3,500   | 雑費       | 9,950   |
| 不在参加 9×500         | 4,500   | (謝礼その他)  |         |
| " (小)2×300         | 600     | H E L 振替 | 28,939  |
| (59名)              |         |          |         |
| 寄附金                | 18,300  |          |         |
| 国兼 10,000、山賀 2,500 |         |          |         |
| 高橋、北島、斎藤(千) 1,000  |         |          |         |
| 平田 800、            |         |          |         |
| 江口(音)、早川、浜田、       |         |          |         |
| 三沢(正) 500          |         |          |         |
| H E L から           | 10,000  |          |         |
| 計                  | 120,400 | 計        | 120,400 |

## Raporto el Hokodate

Ni elkore dankas al la penado de S-ro Sawaya la sekreto de HEL kaj la preparaj komitatanoj de Kongreso.

Estis tre bedaŭrinde, ke pro la diversaj kaŭzoj, neniu e nia societo fine partoprenis en ĉijara HEL Kongreso, kaj revidis kun gesamideanoj el tuta Hokkajdo.

Ni raportas nian movadon dum la pasinta unu jaro.

1. Kurso Sub la gvido de S-ro Joŝida, kiel unu fako de la edukado por plenaĝuloj de nia urbo, ĝis marto okazigis Esperantan kurson ĉe urba biblioteko. Sed depost aprilo, pro la ŝanĝo de urba intenco, ni ĉesigis la kurson laŭ antaŭa sistemo. Nuntempe ni esploras kiel ni havas novan kurson.
2. Kutima kunsido Ni nepre havas kutiman kunsidon Ĝiumonate. Laŭ oportuneco de membroj, la tago estas ne difinita. La partoprenantoj estas inter kvar kaj sep. La kunsido estas okazigita ĉirkaŭ du horoj.
3. Aliaj kunvenoj Ni okazigis du bonvenigajn kunvenojn. Unu el ili estas por profesoro Koseki kaj alia estas por nederlandano H. Wijmer.  
Al la intensiva kunloĝado, ses gesamideanoj aliĝis. Unu el ili estas S-ro Kitajo, la instruisto de Esaŝi alt-lernejo.  
Dek membroj aliĝis al Zamenhofa Festo, kaj estis sukcesa kunveno.
4. Unu el niaj membroj partoprenis en Kunveno de Kjogin okazigita en Tokio en la 4-a de junio.
5. Nuntempe la nombro de membroj estas dek unu.

## RAPORTO DE RONDO NORDO

1. Ĉe la Hokkajda Kongreso okazigita 8an k 9an de julio, ni, la membroj de Rondo Nordo, ne povis raporti pri nia agado post la lasta Kongreso en Tomakomai. Do, permesu nin raporti sur paĝo de LEONTODO.
2. Ni ĉiujaŭde kunvenas de la 18a horo ĉe Clark Halo de Hokkajdo Univ-o. Kaj de novembro ĝis aprilo plie ĉiusabate, samtempe, samloke, ni havis kunsidojn.
3. Ni ellegis lernolibron, "A practical course in Esperanto." Poste ni komencis legi "Facilaj legaĵoj" -n de M. Miyamoto k nun ni legas la rakonton, "La junulino, la ĉapelo kaj mi" Aliflanke ni igis nin aĉeti la studlibron, "Arte traduki Esperanten" de K. Macuba.
4. Ni kreis en Rondo Nordo novan grupon, Rondo Nordo studkunsido, por konsiligi pri la movado de Rondo Nordo k Hokkajdo. Bedaŭrinde ni ne povis daŭrigi ĝin pro multaj kaŭzoj.
5. Je la 11a de decembro ni festis la naskon de nia Majstro ankaŭ ĉe Clark Halo.
6. Ĉi-jare nia studenta parto ne agis por varbi aŭ gajni novajn membrojn en Hokkajdo Univ-o. (Pri Sapporo Univ-o ni ankoraŭ ne ricevas raporton.)
7. Niaj nunaj membroj estas jenaj:

K-doj

E. Kurokaŭa

M. Kobajaŝi

Ĉ. Saito

K. Saito

M. Sato

Y. Sawaya

H. Sinizu

M. Mine

sume 8 membroj.

8. Privata penso.

Vidante nian kunsidon mi trovas malviglecon eng tiu. Mi pensas, ke tie ni ne diligente studis k ke ni tempo al tempo pasigis ĝin babilante negravaĵojn. Mi scias, ke ni multe diskutis nian rovadon k pro tio ni ne havis tempon por lernado. Tial mi proponas, ke ni unue lernu k poste diskutu! (Ŝ)

----- Korespondanto de RW



Kara S-ro Sawaya,

Tokio, 28.6.'72

Koran dankon pro via poŝtkarto de la 22-a de Junio kiel ankaŭ pro "Fecntodo".

Mi devas informi vin ke bedaŭrinde (bedaŭrinde por mi) ne eblos al mi partopreni la Hokkajdan Kongreson.

Mi ĉiukaze kore dankas vin pro via invito kaj sincere esperas ke vencs baldaŭ alia okazo kiam mi povos reviziti vian urbon.

Bonvolu transdoni al la organizantoj de la Hokkajda kongreso miajn plej sincerajn kondamnojn por vere sukcesa okazigo de la kongreso.

Sincere via

  
G. S. Pompilio

R A P O R T O de sekretario de Hokkajda  
Esperanto-Ligo

En tiu ĉi periodo KOMITATO de nia ligo 5 fojojn havis ansidon kaj diskutis ion pri nia organiza movado, kaj prezentis kelkajn proponojn al ĉiuj gesamideanoj en la organo kiel raporton de Komitata Kunsido.

1. Okaze de la eldono de "Leontodo n-ro 44", ni faris reregistron de la membroj. (Vidu L. n-ro 45) Nia ligo nombras entute 108 anojn. (Tamen nuna nombro estas malpli ol en la jarfino 1971, pro translokiĝo ekster Hokkajdon k.a.)
2. Malgraŭ diversaj malfacilaĵoj ni povis eldoni 4 numerojn de la organo LEONTODO, dank' al kelkaj fervoraj gesamideanoj, precipe, la sindona klopodo de s-ano Kitabatake, bonvoloj k financaj subtenoj de la aliaj gesamideanoj nin obligis publiki tre belan, altnivelan organon, pri kiu ni ĉiuj povas fieri.

3. FINANCO

Generale dirite, membrokotizo estas relative, bonorde, pagita de preskaŭ ĉiuj individuaj membroj k grupoj, por la jaro 1971. (Vidu financon raporton.) Sed ĉi tie ni devas serioze rigardi la fakton, ke nia ligo nun posedas nur sumon de 32,756 enoj! Kaj la detala konsidero pri la enhavo de enspezo k elspezo nature kondukas al la altigo de membrokotizo, kiel Komitato prezentis tion en la propono.

4. Pri la rezolucioj de la 35a Kongreso

a. INTENSIVA KUNLOĜADO AŬTUNA

Kiel jam precize raportita en la organo n-ro 44, ĝi estis okazigita dum la 24a--26a de sept., 71, kun 15 partoprenantoj + nederlanda samideano, ĉiu hazarde vizitis Hokkajdon por vojaĝi. Sufiĉa preparo kaj bona arango de gesamideanoj en Tomakomai k Titose ne nur donis al ĉiuj partoprenantoj agrablajn, fruktriĉajn tagojn en Esperantio, sed ankaŭ certigis, ke tiu ĉi intensiva kunloĝado rolis efike en propagando de nia lingvo al la loka socio.

b. KUNLABORA TRADUKO DE AINAJ POPOLRAKONTOJ

Organizigis La Studa Grupo por Esperantigi Jukarojn", kaj energie k persiste tradukadas "Ainu Sinyō-syū"n s-anoj A. Hošida, K. Sekio, Ikemoto M., I. Yamaga.

Jam sep jukaroj el ĝi estas prove tradukitaj. (L. n-roj 46 k. 47) Tiun ĉi traduklaboron oni alte taksas k ekspektas ĝian fraktigon. Partopreno de pli multaj samideanoj a t e n d i t a .!!

c. PRI OFICIALA ESPERANTA KOMO DE NIA KONGRESO  
En la nomo de la Komitato, ni proponas formon de  
"La 36 a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo"  
(Vidu raporton de la 5a Komitata Kunsido  
kaj la proponoj por la kongreso)

Ĉ. BEELONO DE "Historieto de Esp.-Movado en Hokkajdo"  
Nia ligo povis emnavigi skribmaŝinen, kaj s-anino Mitaba-  
ke bonvolis diri al ni preni sur sin la tajpadon de la  
historia materialo. Ni devas esprimi elkeran dankon al  
ŝi pro la bonvolo por nia afero.

### 5. Flugfolioj por la propagando

Ni multobligis 7-specajn flugfoliojn per faksimilo el  
diversaj ĵurnaloj k gazetoj, tiel ke ĉiuj grupoj k indi-  
viduoj povu utiligi ilin ne nur propagando, (sed ankaŭ  
por starigi "ideologion de Esperanto" inter ni), okaze  
de elementaj kursoj, ekspozicioj ktp. Ni vendas al ĉiuj  
je neta prezo;

- |  | <u>prezo</u>   |
|--|----------------|
| 1. "Rekomendi lerni Esperanton" (La Movado)  | 50 ekz. - ¥125 |
| 2. "Esperanto-Movado en Vjetnamio" (R.O.)  | 50 " - ¥200    |
| 3. "Lingva Imperiismo kaj Esperanto"<br>(Umehao Tadao, Asahi-ŝinbun, '70-8-21)   |                |
| + "Pri PLENA ILUSTRITA VORTARO DE ESP." (Asahi Ĵurnal,<br>1971-6-4)  | 50ekz. - ¥200  |
| 4. "Partopreninte en Mondkongreso de E-istoj" (asistprof.<br>Masahiro Misawa, Hokkajdo-ŝinbun, '71-8-26) +<br>"Intensiva kunloĝado de Esp. kaj nova naskiĝo de TERO"                 | 50ekz. ¥200    |
| 5. "Esperantaj Libroj eldonitaj en Vjetnamio" (Hideo Kuma-<br>ki, Akahata, 1972-2-3) + "La Verda Kolombo--agoj de<br>Japana Pacdefenda Esperantista Asocio" (Akahata, 1972-<br>3-12) | 50ekz. ¥200    |
| 6. "Pri Internacia Helplingvo" (Takasugi Iĉiroo, SUURI-<br>KAGAKU, feb., 1972) + espetantigita popolkanto "La in-<br>fanoj sen sperto pri la milit'" (La Movado, apr. 1972)          | 50ekz. ¥200    |
| 7. "Kia lingvo estas Esperanto" (Nova Kurso de Esp., vol.1<br>Oosima Yosio, eld. Yoobun-sya, 1968)   | 50ekz. ¥200    |



al  
partoprenantoj de la kongreso

Saluton al ĉiuj partoprenantoj ! . En lasta numero de Leontodo, mi skribis pri "Mucugorō", kaj de aprilo mi instruas la filinon en mia klaso.

kore via

HAMADA kunisada (浜中)

参加(出席)できず残念。大会の盛会を祈ります。

(藤原信吉・函館)

出席は遠いのでできません。御盛会を祈ります。

(山崎久蔵・舞鶴)

Mi deziras al vi ĉiuj la prosperan kunvenon kaj sukceson de la 36-a Esperanta Kongreso en Hokkajdo.

ARIMA Yosiharu (札幌)

はじめての社会人としての生活で忙しい毎日をおくつています。エスペラントとも、しばらくとおざかっています。すっかり忘れてしまわないうちに学びをおしたいとも考えています。もう少し余裕ができるまで、チョット無理のようです。行けないのがとても残念です。大会がどうぞ無事おわりますように！ (川崎玲子・札幌エス会。'71年秋の初級講習会受講

生、旭川)

御盛会を心からお祈り申し上げます。(坂本京子・函館)

Grandan sukceson kaj karajn salutojn por La 36-a  
Esp. Kongreso! Tute via

Joŝio OKAMOTO (滝川)

ごぶさたしております。

LeontodoやBultenoでエス会が着々と歩んでいることを知ることができのをうれしく思っています。

北海道大会は欠席させていただきます。大会の成功を祈っています。

田一domoの件も頑張ってください。札幌へ行つたあかつきには田一domoに寄ることができるのも夢ではないのですね。楽しみにしています。

それから、同封のもの、いつも送つていただいている機関誌の分にも思つたのですが、足りなければお知らせ下さい。

Ĝis revido!

(本田桂子；東京，eksmembro de Sappora  
Esp.—Societo, eksnomo Watanabe)

◎HELへのカンパ1,000円をいただきました。

Koran Dankon! (事務局)

Mi deziras sukcesan kongreson!

Mi esperas grandan marŝon de Esperanta movado de  
1. ĉi kongreso.

影 浦 英 明(東京)

引き廻わされて自分の時間と言うものが全く少ないのを残念にも思い、  
生き甲斐あることとも思っています。

今回参加できないのは残念の一語につきますが.....

笹 村 貞 雄(札幌)

Mi iras post vi,

Mi iros kun vi,

Ili ankaŭ kun ni.

堀 江 精 一(遠軽)

都合により欠席いたしますが、大会の成功を御祈り申し上げます。

(大橋敬子・小橋)

近日中に美唄労災病院に入院することになりましたので、残念ながら参加できません。悪しからず。

(佐々木柳子・美唄)

ご盛会を期待いたします。昨年のも小牧大会の思い出をなつかしんでいます。

(渡部隆志・福井市)

大変御苦勞様です。 Transdonu mian saluton al gesamideanoj.

(須藤昭三・室蘭)

ひまがありそうで、まとまつたものがとれないので・・・しかし、函館エス会の例会には出席していますから、安心して下さい。

(高野富輝夫・亀田)

"Ne sufiĉas nur deziri la pacon. Estas necese batbri por ĝi". La vortoj de Georgij Dimitrov(1936) Liaj vortoj estas kvazaŭ trezoro, epigramo, kaj vivas hele, brilas en nuna situacio de la mondo, supre la terglobo. Nur por tio mi partoprenos la movadon batali kontraŭ malamikoj de la paco. En nuna tempo nur E-lingvo mem estas sensencaĵo!

Kun amika asluto

Hissa INOUE (函館)

大会当日は残念ながら出席できそうにもありません。あしたは(6月27日)この学校の運動会で、緑星旗を持たせて遊戯もやります。こんな程度のことしかできないのは残念ですが、根気よく続けるつもりではいます。

(向井豊昭・日高)

第36回北海道ニスペラント大会の御成功を祈ります。

(中西隆嘉・帯広)

名目だけの存在になつてしまつたようです。どうもすみません。“就戦したらまた勉強します”という感じ。(仁熊義則・札幌)

御無沙汰は致しておりますも、皆様のお元気そうなお顔が目に見えます。昨年は大変お世話になりました。とても愉快地過ごすことができましたので、本当は今年の大会にも出席させていただくつもりでございましたが、都合で出席できません。それに勉強不足でさつぱり上達しませんので、皆様に合す顔がないのが事実か知れません。

(高杉キミ・千才)

今年こそ出席させていただこうと思つておりましたが、ちょうど旅行中に両日ともぶつかり残念です。次回に皆様にお会いできることを楽しみに成功をお祈りいたします。(崎野洋子・小樽)

Mi elkore esperas fruktoriĉan sukceson de la Kongreso.

KAŬAGUĈI Joŝihiko (東京都)

自分の都合で今のところ例会にも出られず、不勉強なので何も申すこと  
ございません。大会が無事行なわれますように祈つています。

(井手裕子・千才)

Saluton al ĉiuj kunvenantoj! Mi bedaŭras, ke mi ne povas partopreni ĉi-jaran kongreson. Mi devas ekiri al Tokio por ĉeesti la Azia-Afrika Oftalmologia kongreso.

YAMAGA Isamu (小樽)

まだ学校が休みになつませんので、残念ながら参加できません。

(稲村 泉・東京都)

昨年の大会時の問題 (Negflorokoj n-ro8 参照) の関係があり欠席します。36回大会の成功(?)をお祈りいたします。(S)

長らく御無沙汰しました。今はエスペラント活動に参加するのは無理と思います。(関口敦子・1970年秋の講習生, eksmembro de RN.札幌)

欠席の第一の理由は、わたしのいるホロカヤントーは海岸で、したがって大樹町の観光地になつており、頂度忙しい時期だから。第二にエス語は全くの初歩で、独りぼつちで大勢の仁の前に出てもわからないから。

次に希望；どなたかわたしのところへきていただけませんか。おいしい鯉料理、ジンギスカンをごちそうします。そうしてボートにもものつて下さい。家は鶏小屋を改造したものですから、大勢は泊れませんが、あと沼の間の在可地のキャンプ場は何人でも平気ですから、大勢の時はテントを持ってきてください。皆さんに、道東方面においでの際は、まげてお立寄り下さるようご吹聴お願いします。白髪の子とばばが、小さな食堂で、菓子、飲物などを売り、沼の鯉をとつて売っています。ボートもあります。泊りもできます。エス語の同志は特に優遇します。

(米山寅吉・大樹町晩成ホロカヤントー)

世界中の人々が定められた共通語を尊重して教育の中にとり入れていくかという問題も解決されていくものと信じております。エスペラント語については、バハイの創始者バハオラの長子アブドルー・バハ(1844 ~ 1921)が何回となく、その意義の大きさ、世界的な性格についてのべて研究するように話しておりますので、すでに何十年も前から、バハイの中にも、研究し、各国のエスペラント協会の中で活発に仕事をしている人も多く、機会あるごとに協力しあっております。ただ、まだ正式にエスペラントが世界共通語であると、バハイの中で定められているわけではなく、先程も申しあげましたように、自国のもののみを愛する人間から、全世界全人類を愛する者を作りあげていく努力にも同時に力を注いでいるわけでございます。もちろん、一つの世界共通語の採用とそれの十分な利用という点まで達するには、私共は、一步一步でも、目標へと向つて近づくより努力しているつもりでございます。

これを機会に、また、ご意見をお寄せ下されば幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。



### 編集ノート

敬具

×-×-×-×-× = ×-×-×-×-×

\* 9月中には発行するつもりが、とうとう12月まではいってしまいました。事務局=編集局も忙しいこともあり、また大会議事録が大幅に遅れたためです。

\* 各ロンドの活動報告(例会でどのほどを勉強しているかも含めて)は、必ず送ってください。

\* 北九州ではついに独自の事務所を持つことに成功した。27札幌の方は?

\* 1973年の日本大会は京都府の亀岡市で、8月11~13日。KLEGの林間学校もたまたま合せて行なわれる。春は境津の合宿、夏は新開学校、今から準備を!

\* 1972年も残すところは、あとわずか。なにか商品のコマーシャルに多く借用してさうな壁紙ポスターが、せたり多いです。今にも面白い批判の上は、わたしらの一票を!

- アリウス派(人) (\*) ariano アルブツス(果) arbuto<sup>s</sup>  
 ~教養 arianismo(千世紀の異 アルブツス(植) arbutarbo  
 端で、キリストは神のように永遠 アルブミン(生化) albumino  
 なのではなくて、無から神によつ アルブミノイド(生化) albuminoido  
 て造られたものであると唱えた) アルブモース(生化) albmozo  
 アリザリン(化) alizarino(紅色色素) アルブスト(属)(植) ursobeto  
 アリーズ(果) alizo<sup>s</sup> アルデバラン星(天) Aldebarano  
 arjusanen 亜硫酸塩(化) aulfito アルデヒド(化) aldehido<sup>s</sup>, -CHO  
 アリェーション諸島 Aleutoj ~機能を示す(化尾) ~al~  
 arjûsa 亜流者たち(芸)f.epigonoj metanalo ホルムアルデヒド(メタナ  
 アロデイウム(自由保有地)(ヨ史) alodo ール ← IUPAC命名法)  
 アロエ(植) aloo, ~剤(薬) aloaĵo アルファ(ギリシャ字母第1字A の名称)  
 アロフォン(声) alofono(異音) alfa<sup>s</sup>, ~線 alferadioj,  
 aru 有る stari, ある(高さが)stari ~粒子 alfakorpuskloj  
 ある(本部などが) sidi アルファベット(文) alfabeto  
 aru ある(不特定) certa, (T) iu アルファソウ(植) alfo<sup>s</sup>  
 (形) unu, ある人 iu, アルフェニド(化) alfenido<sup>s</sup>, (洋銀、発  
 ある人・物(代) unu, ある人の ies 明者 Alphen の名にちなむ)  
 ある事・物 io, ある男 ulo, アルギニン(化) arginino\*  
 ある理由で ial, ある数量の kelka アルギン酸(化) alginata acido  
 ある種の ia, ある時 foĵe, iam ~塩(化) alginato  
 アール(面単) aro<sup>s</sup> アルグアシル(警官)(\*) algvazilo  
 アルバニア Albano, ~ ujo アルゴン(元素)(化) argono<sup>s</sup>, Ar  
 アルバニア人 albano アルゴナウテース(勇士)(ギ神)  
 アルベド(天、光) albedo(太陽から入 argonaŭto<sup>s</sup>  
 射光の強さに対する反射光比) アルゴール星(悪魔の意)(天) Algolo  
 アルビ派(人) (\*) albigenseo(12, 3世 アルゴ船(ギ神) Argo  
 紀(カ)アルビ町付近の異端) アルゴス(ギ神) Arguso  
 アルビオン(文学) Albiono(= Anglio, アルゴ座(天) Argo(Pup, Vel, Pyx,  
 Anglujo) Car)  
 アルブ(袂)(僧服) (\*) albo(白麻ミサ服) aruite 歩いて渡る travedi,

|                                    |  |
|------------------------------------|--|
| アルプス山脈 Alpoj                       | アセチレン(化) acetileno                                 |
| アルシン(化) arsino(悪臭、有毒)              | アセチル(化) acetilo <sup>s</sup> , CH <sub>3</sub> CO- |
| (ロン長単) aršino <sup>s</sup> (o71lm) | asenšokuši 亜染色糸(生)                                 |
| アルマイル星(天) Altajro*                 | genenemo   |
| アルタイ山脈 Altajo                      | アセタール(化) acetalo                                   |
| アルト(音・声)(楽) aldo                   | アセトアニリド(化) acetahilido                             |
| アルト(人) aldulo,                     | アセトン(化) acetono <sup>s</sup>                       |
| アルト歌手 aldisto                      | アセトン症(病) acetonurio                                |
| アルゼンチン Argentino,                  | asobu 遊ぶ p.f. ludi                                 |
| ～人 argentinano                     | (部品が)(機) ludi                                      |
| アルゼリア兵(フ) pspahi                   | 遊びの amuza  |
| アルゼリア歩兵(フ) zuavo                   | asoko あそこ(副) jen, (F) tie                          |
| asa あさ(麻) kanabo                   | あそこで tie   |
| asa 朝 mateno, 朝である Materas         | アソナンス(音響反響、母韻)(修・詩)                                |
| 朝である materas,                      | asonanco(Japanio kun.                              |
| 朝やけ ĉielrugo, matenrugo            | Vjetonamio)  |
| 朝の戶外奏樂(楽) auĉado                   | assaku 圧搾機(機) premmaŝino                           |
| 朝の祈り(フ) matutino <sup>s</sup>      | ～ロール(機) precilindro                                |
| asagao アサガオ(植) farbilo             | assari あつさり(と) seninsiste                          |
| asagao 朝顔形・口(疑) embrasuro          | asu あす(副) morgaŭ,                                  |
| 朝顔形はさき銃眼(譯)～ paftruo               | あすの murgata,                                       |
| asagurci 浅黒い bruneta,              | あす一日 morgaŭo                                       |
| ～女 brun(et)ulino                   | アース(通) terkonekto                                  |
| asahaka 浅はかな malprudenta           | アスベスト(鉱) asbesto <sup>s</sup>                      |
| asakumu 眠くず ĉpinaĉo, stupo         | アスファルト asfalto                                     |
| ～でふさぐ stupi                        | ～をしく asfalti                                       |
| asariaruku あさり歩く f. ĉasi           | アスクレピアデス(詩) asklepiando <sup>s</sup>               |
| asase 浅瀬 vadejo                    | アスクレーピオス(ギ神) Eskulapo                              |
| ase 汗 ŝvito, 汗をかく p.f. ～i          | アスコルビン酸(化) askorbata acido                         |
| 汗が(に)じみでる ŝvitigi                  | アスベラガス(植) asparago                                 |
| 汗をかかせる p.f. ŝvitigi                | アスパラギン(化) asparagino                               |



～器(化) asparatata acido, aŝi 脚(詩) piedo.  
 ～埧酸(化) asparatato<sup>f</sup> (器具などの)脚 stativo  
 アスペルギルス病(病) aspergilozo (物の)脚 tigo<sup>s</sup>  
 アスピク(ゼリー)(料) aspiko 脚(解) pedunklo<sup>s</sup>  
 アスピレータ(機) suĉmaŝino 脚の脚 pedunklo de cerbo  
 アスピリン(薬) aspirino<sup>s</sup> aŝige あし毛の(脚) ruana  
 アスタチン(元素)(化) astatibo, At aŝika ましか(動) marleono,  
 アステリスタ(木)(印) asterisko<sup>s</sup> あしか(脚)(動) otario  
 アステロイド(数) astroïdo あしか科 otariedoj  
     asteroido<sup>s</sup> aŝinagabaĉi (虫) polisto  
 アストラカン(皮)(股) astrakano アソニア紙幣(フ史) asignato  
 アストレンゼント(化粧水) アッシリア(史) asirio,  
     astringaĝo ～学 asiriologio,  
 アストロラーベ(観測儀)(天史) ～人 asiriano  
     astrolabo<sup>s</sup> aŝŝi 斥死させる premortigi  
 aŝi アシ(櫃) kano, aŝu 蔗種(生) subspecio  
     アシ製品 kanaĝo アンニレアン脚(考) aculeo  
 aŝibue あし筒 mirilitono, ataeru 与える domi  
     salvo 与えてしまう fordoni  
 aŝi 足(解) piedo, atama 頭 kapo,  
     (垂線の)足(姿) piedo, 頭で合図する kapesigni  
 足のうら plando, 頭のにぶい f. dikkapa  
 足跡 spuro, 足場 starejo 頭の大さい dikkapa  
 足ぶみする piedfrapi 頭を飲ませる kaprompa  
 足ぶみうす tretmuelilo 頭を丸れる kapklini  
 足台 piedbenketo 頭をひねる cerbumi  
 足段 piedbreto アタマン(司令官)(スラ) hetmano  
 足指 piedfiagro atar 亜炭(金) lignito<sup>s</sup>  
 足音を忍びやて ŝtelpaŝe ataraŝii 新しい nova,  
 足底 plando, 新しく novo,  
 足かせ kateno, kateni 新しい製成者 f. prozelito

|                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| atari あたりをつつむ                     | 後について行く sekvi                           |
| cirkausvebi                       | 後続く postveni                            |
| アタシエ(配) ataŝeo <sup>8</sup> (随行員) | 後に残す postlasi                           |
| ～ケース ataŝea teko(E-E D)           | あとにゆく postiri                           |
| atacakai 罠かい varma,               | 後を追わせる sekvigi                          |
| 暖かくなる varmiĝi                     | atobae あとと生え postfojon                  |
| 罠める varmigi                       | atoharai あと払い(差引、残額)                    |
| ate あてに書く、送る adresi               | retropago                               |
| ate あてにする konfidi                 | atogaki あとがき postskribo                 |
| あてが外れる trompiĝi                   | (印) postparolo                          |
| ategau あてがう almeti                | atokata あと形もなく sensupre                 |
| f. assigni, provizi               | アトニー(医) atonio <sup>8</sup> , sentoneco |
| atehamaru 当てはまる aplikigi          | アトランテース(柱)(船) atlanto                   |
| atekomo あてこむ f. kalkuli           | アトラーズ(ギネ) Atlaso                        |
| atekosuri あとこすり sarkasmo          | atori (鳥) fringo                        |
| ～をいう sarkasmi                     | アトリエ(美写) ateliero                       |
| あてこする ironii                      | アトリウム(中庭)(口) atrio                      |
| ateru あてる diveni                  | アトロピン(化) atropino <sup>8</sup>          |
| (光などを)あてる surverŝi                | アートタイプ(印) artotipo <sup>8</sup>         |
| atemono あてもの                      | atozan あとさん(医)                          |
| (物の影の) kuseno                     | poetnaskitaĵo                           |
| atena あてを adreso,                 | au 会う vidi                              |
| ～印刷器 adresografo                  | アウブリエチア(植) aŭbrietio                    |
| アテネ(ギ神)Ateno, ～市 Ateno            | アウグスチヌス(キ人) Aŭgusteno                   |
| ～島の atika <sup>8</sup> ,          | ～派修道士 aŭgtetenaro                       |
| ～風文学・語法 atikeco,                  | アウグスト(男子名) Aŭgusto                      |
| atikismo,                         | アウストラロピテクス(古生)                          |
| ～の (ギ神) egido,                    | aŭstralopitako                          |
| ～神(船) Atenec                      | aŭa あわ marŝaŭmo                         |
| ato 後を示す(器) post,                 | p. f. ŝaŭmo, veviko                     |
| 後へ posten, 後の posta               | あわだつ bobeli, ŝaŭmi                      |

|  |   |
|--|---|
| あわだち <i>šaũmado,</i>                             | <i>azauerei</i> あざ笑い <i>mokdiro</i>                 |
| あわだたせる <i>šaũnigi</i>                            | <i>aze</i> あぜ(農) <i>sulho</i>                       |
| <i>vezikigi,</i>                                 | <i>azoku</i> 亜属(生) <i>autgenro</i>                  |
| あわをたてる <i>šaũme,</i>                             | アゾレス群島 <i>Acoroj</i>                                |
| あわと消える <i>dissšaũmiĝi</i>                        | アゾ染料(化) <i>azotinktura</i>                          |
| <i>aũabi</i> あわび(貝) <i>kaliĉto</i>               | <i>azakeru</i> 預ける <i>detori, konfidi</i>           |
| <i>aũabuki</i> アワブキ(種) <i>meliosmo*</i>          | あずける <i>šparloki</i>                                |
| <i>aũagaeri</i> アワガエリ(種)                         | (任せて)あずける <i>lokumi</i>                             |
| <i>fleo, -fleũno</i>                             | (銀行) <i>enbankigi</i>                               |
| <i>aũagoke</i> アワゴケ(種) <i>kalitriko</i>          | <i>azuki</i> アズキ(種) <i>azukio*</i>                  |
| <i>aũai</i> あわい <i>f.aera</i> (色の) <i>pala</i>   | <i>azuraja</i> あずまや(キオスク) <i>kiosko<sup>8</sup></i> |
| <i>aũaja</i> あわや~する <i>f.tangi<sup>8</sup></i>   | アズレーホ(わんが)(ス.ホ) <i>azuleho</i>                      |
| <i>aũahukimuši</i> あわふきむし(虫)                     | アズテクス(史) <i>azteko</i>                              |
| <i>cerkopo</i>                                   | <i>aihuda</i> 合札 <i>kontramarko<sup>8</sup></i>     |
| <i>aũaremu</i> あわれむ <i>kompati</i>               | <i>anaumego</i> 欠りめ語(文学) <i>kojlo<sup>8</sup></i>   |
| <i>aũat-ke</i> あわたけ(種) <i>boleto<sup>8</sup></i> | <i>angô</i> 暗号 <i>ĉifro,</i>                        |
| <i>aza</i> あざ <i>bluajo</i>                      | 暗号で書く <i>ĉifri,</i>                                 |
| <i>azakeri</i> あざけり <i>moko,</i>                 | 暗号が <i>ĉifraĵo,</i>                                 |
| あざける <i>moki</i>                                 | 暗号を解読する   |
| <i>azami</i> アザミ(種) <i>cirso,</i>                | <i>malĉifri - deĉifri</i>                           |
| ヒレアザミ <i>kardo</i>                               | <i>aki</i> 秋 <i>autuno</i>                          |
| カツロウ~ <i>agerato</i>                             | <i>akeuataŝu</i> 明渡す <i>evakui<sup>8</sup></i>      |
| <i>azamiĝeši</i> アザミゲシ(種)                        | <i>akuĵo</i> 悪用する <i>ekspluau</i>                   |
| <i>argemeno</i>                                  | <i>akumè</i> 悪名高い <i>fifama</i> =(詩) <i>notora</i>  |
| <i>azamiuna</i> あざみうま(虫) <i>trivoo</i>           | <i>anrakusi</i> 安楽死 <i>eutanazio,</i>               |
| <i>azamuki</i> 欺き <i>trompo,</i>                 | 安楽死術(医) <i>eutanazio</i>                            |
| 欺く <i>trompi,</i> 欺                              | <i>arinsan</i> 亜りん酸(化)                              |
| あざむく <i>mensogi</i>                              | <i>fosfita acido</i>                                |
| <i>azaraši</i> あざらし(鳥) <i>foko</i>               | ~塩(化) <i>fosfite = fosforto<sup>8</sup></i>         |
| アザロール(果) <i>azarolo</i>                          |   |
| ~(種)(植) <i>azarolarbo</i>                        |   |

LEONTODO n-ro 48

1972 年 12 月 20 日発行

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市南2.西4. 中央タイピスト学院内

TEL 251-4750 17075

振替口座 (小樽)

編集 沢谷 雄一